

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4395322号  
(P4395322)

(45) 発行日 平成22年1月6日(2010.1.6)

(24) 登録日 平成21年10月23日(2009.10.23)

(51) Int.Cl.

F I

B 6 5 D 33/25 (2006.01)

B 6 5 D 33/25

A

請求項の数 5 (全 7 頁)

|              |                               |           |                                 |
|--------------|-------------------------------|-----------|---------------------------------|
| (21) 出願番号    | 特願2003-132807 (P2003-132807)  | (73) 特許権者 | 501225678                       |
| (22) 出願日     | 平成15年5月12日(2003.5.12)         |           | ビショフ ウント クライン ゲゼルシャ             |
| (65) 公開番号    | 特開2003-327258 (P2003-327258A) |           | フト ミット ベシュレンクテル ハフツ             |
| (43) 公開日     | 平成15年11月19日(2003.11.19)       |           | ング ウント コンパニー コマンディー             |
| 審査請求日        | 平成18年4月17日(2006.4.17)         |           | トゲゼルシャフト                        |
| (31) 優先権主張番号 | 20207333.5                    |           | B i s c h o f u n d K l e i n G |
| (32) 優先日     | 平成14年5月10日(2002.5.10)         |           | m b H & C o . K G               |
| (33) 優先権主張国  | ドイツ(DE)                       |           | ドイツ連邦共和国 レングリッヒ ラーエ             |
| 前置審査         |                               |           | シュトラッセ 47                       |
|              |                               |           | R a h e s t r a s s e 47, D-4   |
|              |                               |           | 9525 L e n g e r i c h, G e r   |
|              |                               |           | m a n y                         |
|              |                               | (74) 代理人  | 100061815                       |
|              |                               |           | 弁理士 矢野 敏雄                       |

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 再閉鎖可能な包装容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内側に設けられたプラスチック層を備えた複合フィルムから成る袋またはバッグの形の再閉鎖可能な包装容器であって、容器の上縁部（５）に配置された、容器の全内法幅にわたって延びるプラスチックから成る閉鎖装置（６）が設けられており、該閉鎖装置（６）が、容器の前壁（１）に結合された第１の閉鎖部分（８，９）と、容器の後壁に結合された第２の閉鎖部分とを有しており、一方の閉鎖部分が、溝状の収容プロファイルを備えた異形成形ストリップ（８）を有しており、他方の閉鎖部分が、キー状の係合プロファイルを備えた異形成形ストリップを有しており、両閉鎖部分が、前記異形成形ストリップにそれぞれ一体に成形された接続ラグ（９）を備えており、該接続ラグ（９）が、それぞれ容器の前壁もしくは後壁に結合シーム（１０）によって結合されており、さらにスライダ（７）が設けられており、該スライダ（７）が、前記異形成形ストリップに馬乗り状に被さっていて、摺動時に前記異形成形ストリップを密封するように押し合わせるか、もしくは開封するように互いに引き離すようになっている形式のものにおいて、両接続ラグ（９）が、互いに結合されていて、該接続ラグ（９）の結合を分離開放することによって開放され得る第１の閉鎖部を形成しており、当該包装容器が、サイドガゼット（２，３）を備えたサイドガゼット袋またはサイドガゼットバッグとして形成されており、接続ラグの下縁部（１２）が互いに繋がり合うように結合されていて、これにより前記開放され得る第１の閉鎖部を形成しており、サイドガゼット（２，３）が、Ｕ字形の結合シーム（４）によって、当該包装容器の前壁および後壁の、サイドガゼット（２，３）に隣接した縁部に結

10

20

合されており、さらにサイドガゼット（２，３）が、容器の上縁部（５）よりも下方でかつ閉鎖装置（６）の両接続ラグのうちの一方の接続ラグの下縁部（１２）よりも上方に位置する範囲で切欠き（１３）を備えており、該切欠き（１３）の範囲が、隣接した接続ラグ（９）と、隣接した容器壁（１）との間で結合シーム（１０）によって閉鎖されており、サイドガゼット部分（２，３）が、さしあたり閉鎖装置（６）の挿入および固定のために結合されていない、容器の上縁部（５）に隣接した範囲で容器の前壁および／または後壁とあとから結合されるようになっており、閉鎖装置（６）の接続ラグ（９，９ａ）の両外端部が、あとから形成されるそれぞれ同じ側の結合シームに埋め込まれていることを特徴とする、再閉鎖可能な包装容器。

【請求項２】

10

接続ラグの下縁部（１２）が、容器の上縁部（５）の下方約１８～３０ｍｍのところに延びている、請求項１記載の包装容器。

【請求項３】

サイドガゼット（２，３）に設けられた切欠きが、サイドガゼット（２，３）の上端部（１１）に隣接した方の接続ラグ（９）と、隣接した容器壁（１）とを互いに結合する約７～１５ｍｍ幅の結合シーム（１０）のほぼ真ん中に設置されている、請求項１記載の包装容器。

【請求項４】

サイドガゼット（２，３）に設けられた切欠き（１３）が打抜き加工によって形成されている、請求項１または３記載の包装容器。

20

【請求項５】

サイドガゼット（２，３）と容器の前壁および後壁の上側の範囲との間にあとから設けられる結合シームの長さが約４０～６０ｍｍである、請求項１記載の包装容器。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、プラスチックフィルムまたは内側に設けられたプラスチック層を備えた複合フィルムから成る袋またはバッグの形の再閉鎖可能な包装容器であって、容器の上縁部に配置された、容器の全内法幅にわたって延びるプラスチックから成る閉鎖装置が設けられており、該閉鎖装置が、容器の前壁に結合された第１の閉鎖部分と、容器の後壁に結合された第２の閉鎖部分とを有しており、一方の閉鎖部分が、溝状の収容プロファイル（収容横断面）を備えた異形成形ストリップを有しており、他方の閉鎖部分が、キー状の係合プロファイル（係合横断面）を備えた異形成形ストリップを有しており、両閉鎖部分が、前記異形成形ストリップにそれぞれ一体に成形された接続ラグを備えており、該接続ラグが、それぞれ容器の前壁もしくは後壁に結合シームによって結合されており、さらにスライダが設けられており、該スライダが、前記異形成形ストリップに馬乗り状に被さっていて、摺動時に前記異形成形ストリップを密封するように押し合わせるか、もしくは開封するように互いに引き離すようになっている形式のものに関する。

30

【０００２】

【従来の技術】

40

このような形式の公知の包装容器は種々の構成が知られている（欧州特許第０７６７６１４号明細書、国際公開第００／６４７６７号パンフレット、欧州特許出願公開第１０５３９４８号明細書、米国特許第５７７５８１２号明細書）。これらの公知の構成に共通しているのは、包装容器が平袋または平バッグとして形成されており、そして閉鎖装置の閉鎖部分の接続ラグが互いに別個に独立して袋またはバッグの前壁もしくは後壁に結合されているので、封印が必要とされる場合には、開放されて初めて、充填された充填物への接近を許すような別の閉鎖部が設けられなければならないことである。

【０００３】

【特許文献１】

欧州特許第０７６７６１４号明細書

50

## 【特許文献2】

国際公開第00／64767号パンフレット

## 【特許文献3】

欧州特許出願公開第1053948号明細書

## 【特許文献4】

米国特許第5775812号明細書

## 【0004】

## 【発明が解決しようとする課題】

本発明の課題は、冒頭で述べた形式の包装容器を改良して、再閉鎖可能な閉鎖装置による確実な閉鎖を極めて簡単に保証するような、より大きな収容能力（内容積）を有する包装容器を提供することである。

10

## 【0005】

## 【課題を解決するための手段】

この課題を解決するために本発明の構成では、当該包装容器がサイドガゼット袋またはサイドガゼットバッグとして形成されており、サイドガゼットが、容器の上縁部よりも下方でかつ閉鎖装置の両接続ラグのうちの一方の接続ラグの下縁部よりも上方に位置する範囲で成端している（終わっている）か、または切欠きを備えており、サイドガゼットの上端部または該サイドガゼットの切欠きの範囲が、隣接した接続ラグと、隣接した容器壁との間で結合シームによって閉鎖されているようにした。

20

## 【0006】

## 【発明の効果】

本発明による包装容器は同じ輪郭寸法に関して従来のものよりも著しく高い収容能力もしくは内容積を有していて、適当な底部形成時に固有の起立強度（Standfestigkeit）を有している。それと同時に、閉鎖装置により、サイドガゼットも容器内室の確実な閉鎖に取り込まれていることが確保される。閉鎖装置の閉鎖部分に設けられた接続ラグの下縁部の有利な相互結合に基づき、接続ラグ下縁部の結合を分離開放することによってしか開放され得ない第1の閉鎖部が提供されるので、同一の閉鎖装置によって基本的に望ましいとされる二重閉鎖が特に簡単に実現されている。

## 【0007】

請求項2～請求項8には、本発明の有利な構成が記載されている。

30

## 【0008】

## 【発明の実施の形態】

以下に、本発明の実施の形態を図面につき詳しく説明する。

## 【0009】

図示の包装容器はサイドガゼット袋（Seitenfaltenbeutel）またはサイドガゼットバッグ（Seitenfaltensack）の形を有していて、プラスチックフィルムまたはフィルム複合体から成っている。フィルム複合体の場合には、複合フィルムが、包装容器の内部に面した側の面にプラスチック層を備えている。

## 【0010】

包装容器は、図1で見て手前側の前壁1と、図1で見て背後の、前壁1と完全に合致した構成の後壁1aと、サイドガゼット（折込み）2、3により形成された2つの狭幅面壁と、図面にはよく見えていない底部とを有している。この底部は任意の構成を有していてよく、成形底部として形成されている場合には、狭幅面壁の幅に相当する幅を有している。したがって、包装容器は充填された状態では、直方体形の基本形状をとることができる。この基本形状は横断面で見てサイドガゼット2、3の寸法設定に応じて方形か、あるいはまた正方形を描くことができる。

40

## 【0011】

前壁1は、サイドガゼット2、3および底部の、前壁1に接した縁部と、図1に示した正面図で見てU字形の結合シーム4によって結合されている。この結合シーム4は包装容器の上縁部5にまで延びている。全ての結合シームと同様に本発明による包装容器でも溶着

50

シームもしくはシールシームとして形成されている相応する結合シームによって、図1で見て背後の後壁1aもサイドガゼット2, 3と底部とに結合されている。

【0012】

包装容器の上側の開口縁部もしくは上縁部5は、全体を符号6で示した閉鎖装置を有している。この閉鎖装置6は容器の前壁1に結合された第1の閉鎖部分8, 9と、容器の後壁1aに結合された第2の閉鎖部分8a, 9bとを有しており、この場合、第1の閉鎖部分は、たとえば溝状の収容プロファイルを備えた異形成形ストリップ8を有しており、第2の閉鎖部分は、たとえばキー状の係合プロファイルを備えた異形成形ストリップ8aを有している。閉鎖部分8, 9; 8a, 9aは、異形成形ストリップ8, 8aに一体に成形された接続ラグ9, 9aを備えている。第1の閉鎖部分の接続ラグ9は容器の前壁1に結合されており、第2の閉鎖部分の接続ラグ9aは容器の後壁1aに結合されている。さらに、スライダ7が設けられており、このスライダ7は両閉鎖部分8, 9; 8a, 9aの異形成形ストリップ8, 8aに馬乗り状に被さっている。スライダ7が摺動させられると、スライダ7は両異形成形ストリップ8, 8aを密封のために押し合わせるか、もしくは両異形成形ストリップ8, 8aを開封のために互いに引き離す。

10

【0013】

両閉鎖部分の閉鎖ラグ9, 9aはその下縁部12で互いに結合されているか、または互いに一体的に移行し合っており、これにより両閉鎖ラグ9, 9aは、両閉鎖ラグ9, 9aの繋がった下縁部12を分離開放することにより開放され得る第1の閉鎖部を形成する。この第1の閉鎖部が無傷であることにより、その時点まで包装容器内の充填物への接近が不可能であったことが判る。

20

【0014】

たとえば後側の接続ラグ9aと後壁1aとの間では、包装容器の全長に比べて少しだけ短縮されているサイドガゼット2, 3が成端している。サイドガゼット2, 3は後側の接続ラグ9aと後壁1aとの間に結合シーム10aによって一緒に閉鎖されている。このことは特に図4に示されている。図4からは、結合シーム10a内のサイドガゼット3の上縁部もしくは上端部11の位置が良く判る。包装容器の1例では、サイドガゼット2, 3の上端部11は容器の上縁部5の下方約5~12mmのところで成端しており、それに対して接続ラグ9, 9'の下縁部12は容器の上縁部5の下方約18~30mmのところで延びている。サイドガゼット2, 3の上端部11は、約7~15mmの幅を有してよい結合シーム10のほぼ上側1/3の部分に設置されている。

30

【0015】

包装容器の製造時では、前壁1とサイドガゼット2, 3と（底部分と）を結合するU字形の外側の結合シーム4が、容器の上縁部5に接しかつ下方へ向かって仕切り線13にまで達する範囲でまず切り欠かれ、そしてあとからの時点で、つまり閉鎖装置6を導入した後に、後設置される。このようなあとから設けられる結合シーム部分の長さは、約40~60mmである。これにより、閉鎖装置6の接続ラグ9, 9'の両外端部を、結合シーム4の、あとから設けられるそれぞれ同一側（gleichseitig）の部分に埋め込むことが可能となるので、この点でも密な閉鎖が保証されている。

40

【0016】

容器の充填は底部側から行うことができる。しかし、たとえば接続ラグ9と前壁1との間で結合シーム10が少なくとも所定の範囲で切り欠かれていて、充填後にはじめて後設置される場合には、充填を上方から行うことも可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による再開鎖可能な包装容器の正面図である。

【図2】図1でIIで示した部分の拡大図である。

【図3】別の実施例を示す、図2と同様の拡大図である。

【図4】図1のIV-IV線に沿った断面図である。

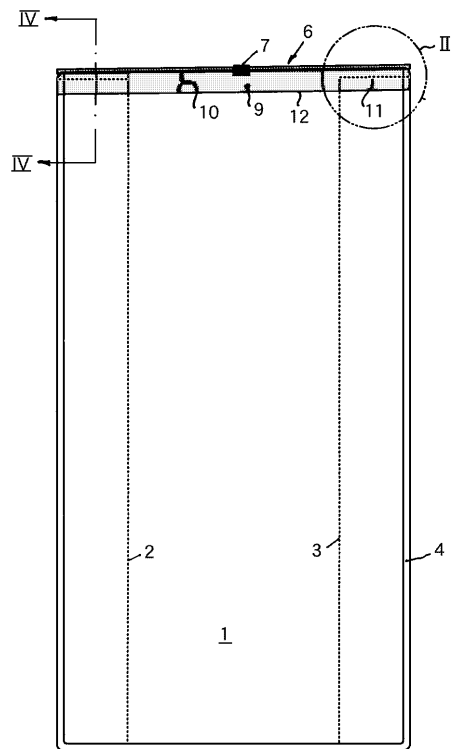
【符号の説明】

1 前壁、 1a 後壁、 2, 3 サイドガゼット、 4 結合シーム、 5 上縁部

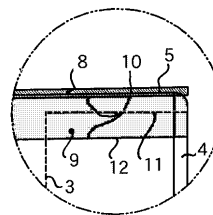
50

、 6 閉鎖装置、 7 スライダ、 8, 8 a 異形成形ストリップ、 9, 9 a 接続ラグ、 10, 10 a 結合シーム、 11 上端部、 12 下縁部、 13 仕切り線

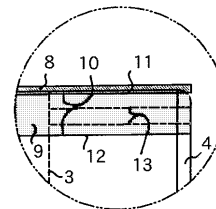
【図 1】



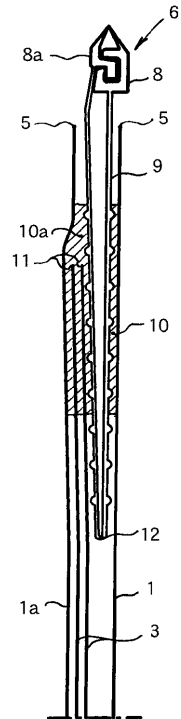
【図 2】



【図 3】



【図 4】



---

フロントページの続き

(74)代理人 100094798

弁理士 山崎 利臣

(74)代理人 100099483

弁理士 久野 琢也

(74)代理人 100114890

弁理士 アインゼル・フェリックス＝ラインハルト

(72)発明者 ヨハネス ヴェーディ

ドイツ連邦共和国 エムスデッテン イム ハーゲンカンブ 30

(72)発明者 マルクス クヤート

ドイツ連邦共和国 オスナブリュック フリッツ＝ベーレント＝シュトラッセ 10

審査官 田村 耕作

(56)参考文献 特開平09-278044 (JP, A)

米国特許出願公開第2001/0038721 (US, A1)

特開2002-254533 (JP, A)

特開2002-179086 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65D 33/25